

## 〈デジタル技術の活用及びDX推進の取組状況〉

### 1.経営の方向性及びデジタル技術等の活用の方向性の決定

#### ① デジタル技術が社会や自社の競争環境にどのような影響を及ぼすか

##### 1.デジタル技術が社会や自社の競争環境に及ぼす影響

###### 1-1.社会へ及ぼす影響…ICT・AIの進歩

近年、ICT・AIの進歩はめざましく、リアルタイム通信、ビッグデータの運用、AI活用等が当たり前の時代となっています。

それにより、働き方や企業活動、顧客ニーズ、ビジネスモデル等に変化が生じており、デジタル時代への対応に迫られています。

###### 1-2.当社の競争環境に及ぼす影響…研究開発の加速化

ICT・AIの進歩により、詳細な顧客ニーズの把握、AI活用による意思決定支援が実現されることから、研究開発の加速化が進み、取引先等から期間の短縮が求められるようになって考えています。

デジタル技術の活用は、現在は付加価値を創出する役割を果たしていますが、今後デジタル技術（特にAI等）が広く普及した場合、事業活動における必須事項となり、DX化は必要不可欠なものになっていくと認識しています。

#### ② ①を踏まえた経営ビジョンやビジネスモデル

##### 2.経営ビジョン

上記のようなデジタル時代への対応を踏まえ、当社は下記の「DX経営ビジョン」を策定しました。

##### DX経営ビジョン

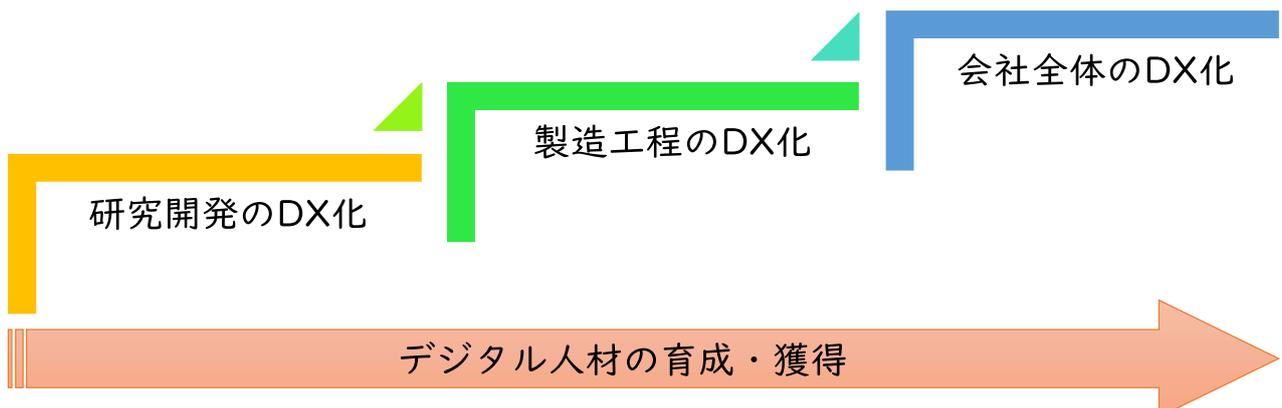
私たちは、伝統と経験に基づく発想とデジタル技術を融合させ、製品開発を通じて、新たな社会的価値の創出に貢献していきます。

### 2.経営及びデジタル技術等の活用の具体的な方策（戦略）の決定

#### ① 戦略

##### 3.戦略

DX経営ビジョン実現に向けて、研究開発のDX化、製造工程のDX化、会社全体のDX化のように段階的に取り組んでいきます。また、デジタル人材の育成・獲得を並行して取り組みます。



・研究開発の DX 化

AI・ビッグデータ等の活用

⇒研究開発の効率化・期間短縮

・製造工程の DX 化

IoT モニタリングシステム等の活用

⇒製造工程の改善・最適化、生産性向上

・会社全体の DX 化

コミュニケーションツール等の活用

⇒社内の情報共有の円滑化

・デジタル人材の育成・獲得

DX 研修・e ラーニング等の受講

⇒全社の DX 化を推進する「DX リーダー」、各部門内の DX 化を推進する「部門 DX リーダー」を育成  
デジタルプロフェッショナル人材の獲得

⇒デジタル技術や DX 等に精通した人材の採用

3.戦略を効果的に進めるための体制の提示

① 社内体制

4.社内体制

DX 経営ビジョン実現に向けて、代表取締役 中島 幹夫を CIO (最高情報責任者)とする下記の社内体制を構築します。

